

●ささはら・ゆうき

1984年生まれ。秋田市在住。秋田中央高校卒業後仙台大学でスケルトン競技を始める。中学では野球部、高校では陸上長距離部に所属。2004年スケルトン日本代表となり、10年間トップ選手として世界を転戦している。

主な戦績：2006年、インカレ優勝／2007-2008シーズン、アメリカズカップ総合優勝／2013-2014シーズン、ワールドカップ第8戦9位／2014年、ソチオリンピック22位。



ナイゲーモデルのヘルメットを作成。



全日本選手権出場時。

さかのぼること2010年。バンクーバーオリンピック出場を逃した僕は、国内で唯一滑走練習施設のある長野県へ秋田県から移住

す。翌年の2011年にその決意を固め、車に練習道具と毛布1枚を積み込み、長野県へ向かいました。住む場所も仕事も何も決めていませんでした。とにかく「今行かなければいけない」という心の声に従いました。そこで縁があつて、長野県安曇野市の農家さんのお宅で働かせていただくことになったのです。その農家さんは主にお米と夏いちごを生産していました。

いちごがまだ堅い早朝のうちに収穫しなければ採るときにつぶれてしまうため、日の出とともに起

きたと思います。

床。いちごの収穫をし、日中は田んぼの草刈りを任せてもらいました。日が暮れると用水路で汚くなくなった長靴を洗い、そのまま近くのトレーニングジムへ。トレーニングが終わるとジムでインストラクターをするという日々が続きました。

稲の収穫が終わるとそこから約半年間はシーズンイン。海外のレースに参戦します。そんな生活を約2年間続けていたうちに、プロのクラブチームから声を掛けていただき、練習に専念できる環境ができました。そして今年2月、ついにオリンピック出場の夢をかかなることができました。

正もできません。それは全て競技に生きています。

僕の基盤となったもの

〜2年間の農業経験〜

JAグループの皆さま、今回はこのような機会をいただきどうもありがとうございます。農業との関わりが強い僕にとって今回のお話にはとても縁を感じております。というのも、2011年から2013年、僕は農家さんのお手伝いをしながら競技を続けていたのです。その頃のお話を少しご紹介したいと思います。

恵まれた環境下でのパフォーマンスは一気に飛躍しましたが、結果を出すための考え方や、僕の競技へ取り組む基盤を作ってくれたのは農業だと思っています。よく言われたのは「一段取り八分」。今日何をどこまでするのか、1カ月先の予定、年間の計画…。それがないと日々の成果が分からず、軌道修

ミスで苗をトラックから落としてしまったことがあります。その時はめちゃくちゃ怒られました。でも農家さんが苗を命のように大切にしていることを痛感しました。僕は基本的にずぼらな性格なのですが、誠実に一生懸命やることの大切さを、農業を通して肌で教えてもらった気がします。僕もスケルトンという競技をそのくらい命懸けでやらなければ本物ではないなと思っています。

3年前に長野県に移住した僕ですが、今は地元秋田県に戻ってきました。現在も現役を続けていますが、スポンサーさんを見つけないのは正直大変苦戦しています。「秋田でスポンサーを見つけないのは無理だ」とおっしゃる方もたくさんいらつしゃいます。それでも皆さんの反応は徐々に変化してきました。これからは長野県での農業生活で学んだこと、オリンピックに出場して学んだことを秋田に還元して、秋田県出身ということだけでなく、秋田県在住の選手として4年後のオリンピックでメダルを取る！これが僕の次なるチャレンジであり、夢なのです。応援よろしくお願いします!!



スケルトン競技ソチオリンピック日本代表

笹原 友希